

小川文子 さん (旧姓：鳥海 1975 年卒業)

『楽しく生きる！』を信条に、多忙な中、中国の楽器二胡を習いながら、いつの間にかNHKのBS「フォト575」でも活躍中。次々と優秀作品を発表しています。

■ 高校時代のプロフィール

部活は演劇部（女子ばかりの創部メンバー）。

家庭科クラブ（調理実習ざんまい）。

美術部・漫画研究会（共に作品描けない、なんちゃって部員）。

1～3年まで図書委員で、図書館にもしょっちゅう入り浸り。

クラシックギターも習っていたので、忙しい日々だった。

■ 大学卒業後のプロフィール

高校の非常勤講師（国語科）を経て結婚。嫁ぎ先はかなりの田舎。自営業&大家族、しかも長男の嫁。そのためしばしば文化の違いに打ちのめされながらも、息子三人を育て、家業を手伝い、義父母や従業員と共に過ごすちょっぴり（いや、かなり）窮屈な毎日の中で、楽しみは本を読むことと音楽を聴くことだった。

4年前から中国楽器の二胡を習い始める。昨年、デジカメを購入したのをきっかけに「フォト575」に出会う。



今回は、写真と句のコラボが趣味になってしまったという小川さんです。主に「フォト575」でご活躍中ですが、初めて聞く方もいらっしゃると思いますのでちょっと説明をお願いします。

NHKのBSに『カシャッと一句！フォト575』という番組がありまして、自分で撮った写真や課題の写真に五七五の句をつけるもので、色々な投稿作品が紹介されているんです。

番組では、毎回最優秀を殿堂入り作品に決めるのですが、こちらが初めて投稿していきなり殿堂入りになってしまったという記念すべき作品ですね。



はからずも視線集めて照れ笑い

自分専用のデジカメを手に入れ、初めて撮った尾瀬の写真に句をつけました。思いもかけず番組で高評価をいただき、そこから作品作りに加速がかかりました。

本当にニッコウキスゲが観客のように男性を見ている感じです。男性のポーズは狙ったのですか？

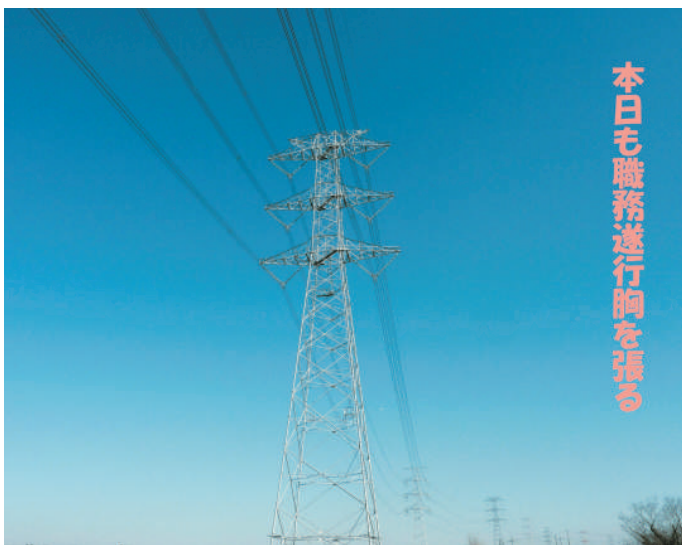
それはありませんでした。全く偶然のポーズなんです。句は後から考えました。

そうなんですか。どう見ても照れて頭を掻いているように見えます。面白いですね。短い文一つあると本当にそういう写真になるのですね。俳句にはもともと興味があったのですか？

いえいえ、俳句の知識は中学の授業レベルです。季語とか切れ字とかいろいろな約束ごとにしぼられるのはちょっとめんどくさい（笑）。この番組では、写真につける句を「俳句」でも「川柳」でもなく、あえて「575」としている点が特徴であり好きな点です。画像に言葉が加わることで、そこに見えている以外の情景が生まれてきます。その魅力にどっぷりはまっています。

足跡を消し足音を唄に変え

会社のすぐ近くの公園です。あっという間に降り積もる落ち葉。前日までの景色から一転した様子を記録したくて撮ったものです。



本日も職務遂行胸を張る

高圧電線として仕事へのプライド満載、という感じが全身から漂っています。見習いたいものです。

お父さん旅先くらい向き合って

金華山のカモメです。手からエサを食べたりして人懐っこい割には目がコワイ。夫婦であっても、言葉が足りないと相手には伝わりませんよね。



正論に困り込まれて息出来ず

筑波山であまりにまっすぐな木の集団に圧倒され、思わずシャッターを切りました。こちら番組内で「殿堂入り」という評価をいただきました。



またひとり帽子残して去ってゆく

たまたま地面に落ちていた無数のドングリを見つけ、ふと顔を上げて小さな発見。

「ここにいた」という形跡を残しつつ、去っていくときは一人。けれど下には仲間がいること、新たな命も生まれることまでドングリは知っているのかもしれない。

こんな風に自由に写真を撮り、そこに句をつけることで、もうひとつ別の世界を表現できるのがフォト575の楽しさです。季語に代わって、写真が季節を伝えているとも言えますし。

う～ん、私は写真撮っても絶対にこんな風に考えつきませんね。やはりセンスが必要なのでしょうか。楽しく句を作ってる、写真を撮ってるというの伝わってきます。

フォト575は、たまにものすごい芸術的な写真が登場しますが、そうじゃないシロウト写真でも575をつけることによって「ほほーなるほど」的に魅力がアップしたりする点が楽しいです。ちょっぴり笑いのセンを狙った、かといって川柳ほどの風刺でもない、写真と575が組み合わせられることで生まれる「クスッ」と感をめざしたいです。

これからも、クスッと思う作品を楽しみにしています。

最後に、小川さんご自身のことなのですが・・・田舎・自営業・大家族の3拍子っていうだけで大変そうって思うのですが、現在、不況で家業の先行き不安、息子さんの不登校、実母様の要介護5の入院と、とても沢山のことを抱えていらっしゃるようで。そんな中で自分の時間を捻出して、二胡の練習や施設での慰問演奏、コンサートに出かけたり、フォト575に投稿されてユニークな作品を作られていたりで凄いなと思ってしまいます・・・

自分が得られる人生の時間は限られていますから、どうせなら「楽しく生きたい」って考えて過ごしています。確かに色々大変なんですけど、「苦労」って考えるより、自分にとって意味のある事って受け入れている方が余裕を持てるように思います。そして好きなこと、やりたいことは諦めない。そのための時間は出来るのを待たずに作っていく。とても欲張りなんです。

ストレスがあっても転換することがお上手なのだと思います。「ものごとは気の持ちよう」のお手本みたいな感じです。時間の使い方も上手いのでしょうか。高校時代のプロフィールから見ても、小川さんに「ヒマ」な時間は無いようです（笑）。ありがとうございました。

(2011.3.20)

『カシャッと一句！フォト575』

<http://www.nhk.or.jp/photo575/index.html>